

A photograph of a young man with dark, wavy hair, smiling and looking slightly to his right. He is holding a large, vibrant red umbrella over his head. The umbrella has the word 'Machifurari' written in a white, elegant cursive script across its canopy. He is wearing a white button-down shirt under a light grey cardigan. The background is a blurred view of a red bridge structure, likely the Great Torii Bridge in Fushimi, Kyoto. The overall mood is bright and cheerful.

Machifurari

栃木県芳賀郡芳賀町

芳賀のまち



目の前に広がる稲穂の真ん中で、秋の長雨にうたれて、どこまでも続く大地を眺める。ここ芳賀町は、五行川と野元川を水源とした県内有数のお米の生産地。異国のような地平線を県内で見れるなんて、僕は初めて知ったかもしれない。同僚に教えてもらった絵本がたくさんある本屋さんを探して、まちの中を歩いた。早速見つけたそのお店は、近くの学校で遊ぶ子供たちの声が響くにぎやかな店内に、かわいい絵本や玩具がぎっしり並んでいて。「よし、この本にしよう」子供へのプレゼントにと選んだ絵本を手にした僕は、なんだか自然と笑顔になった。帰り際にお店の人が「素敵なお店があるんです」と、僕に地図を描いてくれたので、そのお店を探しに行くことにした。畦道の中を迷いながら、やっとたどり着いた場所はまるで別世界のような風景で。「今度は家族みんなでここに来よう」そう思ったのは、月日を重ねた美しい家具や道具たちに囲まれ、父と昔観た懐かしい映画の大好きだったワンシーンを思い出したから。あたたかい温泉につかりながら、遠い父との記憶を思い出し、僕がすべきことと、そして父がしてくれたことを想った。幼い僕に父が教えてくれた大切な言葉を、今度は僕が教えてあげなくちゃ。帰り道、ちいさな赤とんぼが僕を追いついていった。思わずのばした手は、あの頃よりずっと大きくなっていった。



芳賀の手仕事

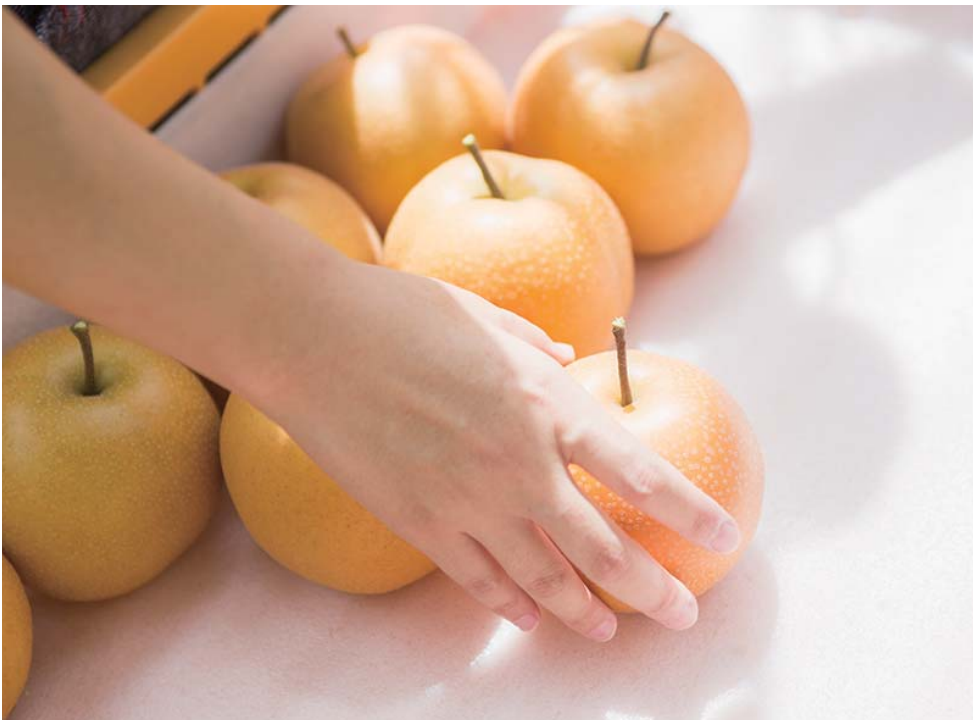
芳賀の梨



今から五十八年前に梨を育て始めた金田さん。当時では珍しい、梨狩りのできる果樹園として評判を呼び、今でもお客さんが絶えません。この園では、完熟の梨を一番良い状態で味わってもらいたいという想いから、採った梨をすぐその場で食べられるようにと、梨畑を解放したり、旬の時期の梨を楽しめるよう、幸水・豊水・秋月・につこりなどの品種を育てています。「梨はデリケートで、とても手間がかかるんです」と話す金田さん。だれもが満足できるおいしい梨を育てるため、収穫までの期間、剪定・消毒・受粉・摘果作業を手作業で丁寧に行なっています。そして、なるべく農薬を使わないよう電解水を使い、より安全に育てる工夫もしているそうです。「また来年も来てもらえるよう、どんな作業も手を抜かず、もっとおいしい梨を育てたい」と黄色く色づいた梨をやさしく見つめながら、金田さんは話します。今日も金田果樹園は、大切に育てられた美味しい梨をもとめ、訪れた人々の笑顔であふれていました。

金田果樹園 [Kaneda Kaiyuen]

栃木県芳賀郡芳賀町1726-3 / Tel. 028-667-1429



栃木県那須烏山市

那須烏山のまち

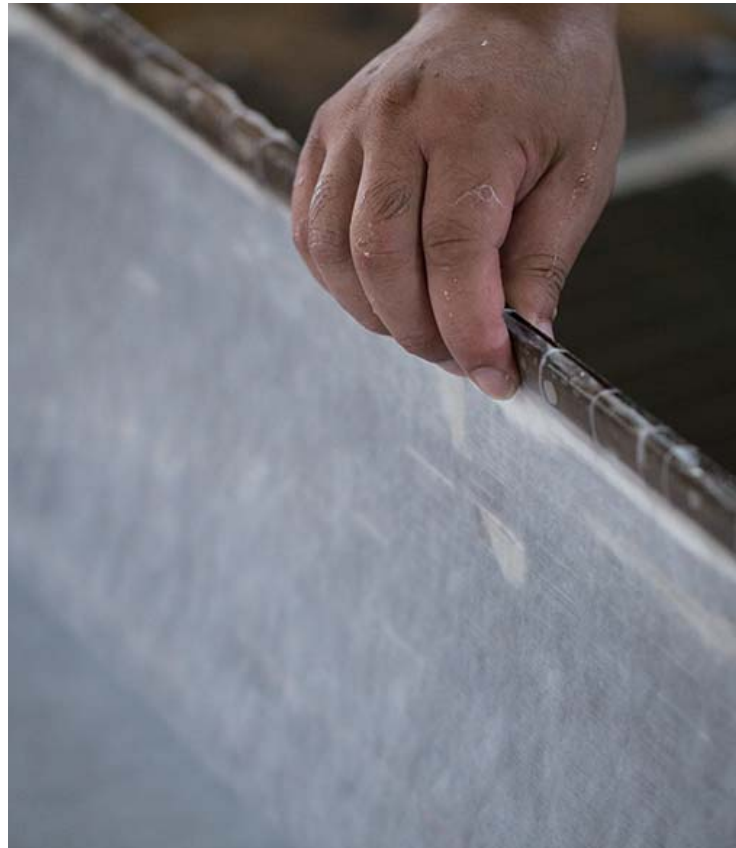


江戸時代に水運の拠点として栄えたまち那須烏山市。それを象徴とする四五〇年以上続く「山あげ祭」は、大きな山と滝を描いた和紙で作る「山」を立てる盛大なお祭りで、自然の恵みを人々に分け与え、まちが潤うようにと願いを込めて行うのだそう。このお祭りを忘れられなくて、僕はまたこのまちで目の前を流れる大きな那珂川を、赤い橋の上から眺めている。全身に感じる堂々たる水の流れと、やさしい音がかつてこの川を行き交った舟の姿を想像させる。まちの方へ歩く途中、いい匂いにつられて、ここで採れた鮎を焼くお店に立ちよった。鮎がいる川は水がきれいで豊かな証拠だと、店主さんが誇らしげに教えてくれて。まちにある老舗の蕎麦屋さんで見つけた「どうくつ酒蔵」のパンフレット。興味をひかれた僕は、その洞窟を目指して歩きはじめた。ひんやりとした空気が流れる洞窟で、熟成された日本酒を飲むと、みずみずしいさわやかな香りと味わいが身体に染みわたった。このまちで有名な鮎、日本酒、八溝そば、どれも綺麗で豊かな水がないと美味しく作ることができない。このまちの人々は自然の恵みを上手に活かして、今も生活を潤し続けている。山あげ祭を通じて、人々の思いはちゃんと神様に届いていたんだ。那珂川の流れるように、このまちがいつまでも続いていきますように。



那須烏山の手仕事

烏山の和紙



障子や襖紙、傘紙などの日用品に。鎌倉時代から、丈夫で厚みのある烏山の程村紙は人々の生活に欠かせないものでした。生産が盛んだった当時、紙の間屋を営んでいた福田製紙所さんですが、和紙職人の減少を機に、自社で紙漉きを始めました。烏山和紙の原料は楮という木。それを煮だして、アクが無くなるまで洗浄を繰り返し、堅い繊維や甘皮を手作業で取り除いて、打解します。氷が張るような冬場でも、身体で覚えた感覚を損なわないよう、冷たい水のなか素手で作業をする。また、天気や気温、湿度によって原料の配合を細かく調整します。そんな職人さんの和紙と真剣に向き合う姿勢は、今もしっかりと受け継がれています。「昔からの技術をさらに高めることが大切なんです」。つかい手が喜んでくれるような良質な和紙を提供するために、どんな工程も手を抜かず、丁寧に作業を行う福田さん。歴史の中で培われた紙漉きの技術は、職人さんの想いと一緒に、和紙一枚一枚に美しく表れていました。

福田製紙所 和紙の里 [Washi no Sato]

栃木県那須烏山市小原沢599 / Tel. 0287-82-2128





まちのために何かしたくて

森 家業を継ぐために戻ってきて、当時はまちのために何かしたいという意識はなかったんです。高橋 僕も同じです。地元に戻った時は、まちのこともなんて考えていませんでした。森 商工会青年部に入ったことで、だんだん考え方が変わってきたんです。せっかく集まっているんだから何か楽しいことができないかって。高橋 僕のきっかけは山あげ祭の組織に入ったことでした。お祭りの後の閑散としたまちを見て何かやらなくちゃって使命感を覚えて。森 行動するきっかけって大切ですよ。今ではイルミネーションの企画をまかされたり、H A G A 焼きそばというご当地グルメの開発をしたり。その活動のおかげで役場の若手職員達と「ときめきH A G A 未来研究会」という組織を立ち上げることで、まちの予算の受け皿になれるように官民一体となって活動を続けています。高橋 僕は、facebookの「山あげ行事」のページ制作で知り合った仲間と、人の繋がりを作ることを目的とした「glabo」という組織を立ち上げました。そこで定期的にgreen drinksというイベントを開催し、今では市内外から集まった仲間の数名がメンバーとなり、共に活動をしています。

まちの将来へ

高橋 来年ユネスコの世界無形文化遺産に山あげ祭が登録されることになって。森 そうなんです。僕にとつて山あげ祭は憧れのお祭りです。芳賀町にも夏祭りがあるんですが、高齢化と人手不足でだんだん盛り上がりがなくなってます。高橋 僕たちも同じ問題を抱えています。若い子はいない。みんな花火大会にいったらうし、いざ世界無形文化遺産になっても、まち全体で外国人旅行者などの受け入れ態勢がきちんと整っていないんじゃないかって心配もあります。森 お祭りもそうですが、やはりまちの中心部に元気がないといいないですよ。現在芳賀町の中心部は区画整理をしているんですが、ただ道路をきれいにするだけじゃなくて、同時に空き家や空き店舗に、若い人が出店できるような環境をつくることにも取り組んでいます。高橋 そうですよ。僕も烏山駅を基点としてその周辺がもっと活気づくように、まち全体が丸となって真剣に取り組んでいかなくてはと思ってるんです。森 人をたくさん呼ぶ事も重要ですが、その前に、住んでいる人も自慢できるような魅力的なまちをみんなで作っていくことが大切ですよ。

上 森 敦 [BOOK FOREST]

栃木県芳賀郡芳賀町祖母井南1-10-8
tel. 028-677-0017
open. 9:00-19:00 / close. 第2・3日曜
url. book-forest.jugem.jp

下 高橋 誠一 [ヘアークリエイトタカハシ]

栃木県那須烏山市南1-1-4
tel. 0287-82-2331
open. 8:30-19:00 / close. 第3火曜
url. ameblo.jp/hairworks-real/



Machi furari



今回のモデル

鈴木 勇輝さん

面白さは日常に宿る。那須
烏山、芳賀には脈々と流れる
時間がある。先人が紡いだ
文化と豊かな自然、それに
調和する新たなカルチャー
に心が躍った。さらりと日
常にひそむ非日常。ひと息
つきたくなったら訪ねて
みてください。贅沢な時間
があなたを待っています。

撮影協力

芳賀郡芳賀町

姥が池／金田果樹園

坦々廻専門 發巳

芳賀温泉ロマンの湯

芳賀町総合情報館

BOOK FOREST

mikumari

那須烏山市

絵本喫茶ばたぼん

観光やなひのきや

島崎酒造 洞窟酒蔵

那珂川／松月庵

山あげ会館

和紙会館／和紙の里

栃木県内中心市街地のイベント情報〔2015年10月－2015年12月〕



宇都宮市 / 宇都宮城址まつり

江戸時代の日光社参を模して、殿様や侍などに扮した300人の行列が商店街から城址公園へと練り歩きます。

期間 / 10月18日〔日〕 時間 / 10:00-15:00
場所 / 宇都宮城址公園ほか 問合せ / よみがえれ宇都宮城市民の会事務局 Tel.028-632-2989



矢板市 / やいた花火大会

約1万発の花火が秋の澄んだ空を彩ります。イベントも同時開催し、模擬店も多数出店。お気軽にお越しください。

期間 / 10月17日〔土〕 時間 / 第一部 15:00- / 第二部 19:00- 場所 / 矢板市文化会館周辺 問合せ / やいた花火大会2015実行委員会 Tel.0287-43-1755



真岡市 / SLフェスタ

今年の見どころは、デゴイチの愛称で親しまれる「D51」のお披露目。圧倒的なスケールの「D51」と、同時に開催される様々なイベントをお楽しみください。

期間 / 11月29日〔日〕 場所 / 真岡鐵道真岡駅東口 問合せ / 真岡鐵道株式会社 Tel.0285-84-2911



佐野市 / FANTASTIC ILLUMINATION in SANO 2015

今年も色とりどりの鮮やかなイルミネーションが、冬の佐野駅前を彩る風景を是非ご堪能ください。

期間 / 11月15日〔日〕-2月29日〔月〕 場所 / 佐野駅前
点灯式 / 11月15日 17:00-18:30(予定)
問合せ / 佐野駅前交流プラザ ばるぼーと Tel.0283-27-0005



小山市 / おやまグルメフェスタ

栃木県の食材を使った、県内外のご当地グルメ約25品が小山市に集合します。食の魅力を十分ご堪能ください。

期間 / 10月31日〔土〕・11月1日〔日〕 時間 / 10:00-15:00
場所 / 小山御殿広場(小山市役所前) 問合せ / 小山市商業観光課 Tel. 0285-22-9317



鹿沼市 / 鹿沼ぶっつけ秋祭り

江戸時代から受け継がれる絢爛豪華な彫刻屋台や勇壮な囃子の競演が見る人を魅了します。

期間 / 10月10日〔土〕-10月11日〔日〕 場所 / 鹿沼市街地・今宮神社 問合せ / 鹿沼ぶっつけ秋祭り実行委員会事務局 鹿沼市観光交流課 Tel.0289-63-2303



日光市 / 日光焼きそばまつり

約30店の腕自慢の焼きそば店が出店します。人気投票も同時に開催。お気に入りの焼きそばを探してみてください。

期間 / 11月23日〔月〕 時間 / 10:00-15:00
場所 / JR今市駅前通り 問合せ / にぎわいのあるまちづくり研究会 Tel.0288-30-1171



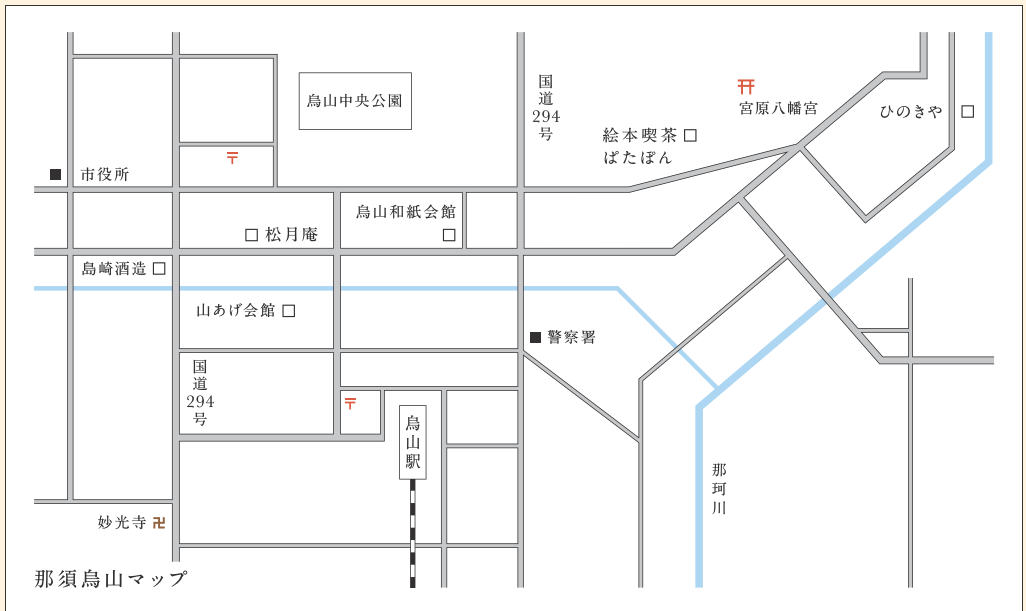
足利市 / のほほんまち歩き 特別着付けプログラム in あしかが

事前予約制で、レンタル着物・着付け・特典がセットになっています。着物を着て足利のまちなか散策をお楽しみください。

期間 / 10月24日〔土〕-10月25日〔日〕
場所 / 足利まちなか遊学館(着付け場所) 問合せ / 足利市観光振興課 Tel. 0284-43-8788

まちなか元気Newsについて

『まちなか元気News まちふらり』は、多くの人に栃木県内の中心市街地に訪れていただけるよう、「まちなか」の魅力を紹介する冊子です。歩くまちは、毎号2市町ずつ。次号は、さくら市・矢板市となります。どうぞお楽しみに。



発行 / 栃木県まちなか元気会議（栃木県まちなか元気会議事務局 | 栃木県県土整備部都市計画課）
Tel. 028-623-2464 / Fax. 028-623-2595

「栃木県まちなか元気会議」は栃木県と県内16市町によって構成される協議会で、
中心市街地の活性化推進を目的に普及啓発事業を行っています。